

大原小校区まちづくりだより 第2号

OHARA SYOUKOUKU MACHIDUKURI DAYORI

平成 27 年 2 月 15 日発行
文責 長谷川 敬二

平成 26 年 8 月 15 日(金)に大原小校区まちづくりだより第 1 号を発行し、早いもので半年が経ちました。第 1 号のまちづくりだよりの中では、大原小校区協働のまちづくり組織の概要やスポーツ部会(スポーツ振興委員会)のペタンク大会の様子などを掲載し、また協働のまちづくりとはどういったものかを、簡単ではありますが説明をさせていただきました。今回の大原小学校区まちづくりだより第 2 号のなかでは、この間取り組んできた活動について掲載しています。

大原校区敬老会を開催しました!!(健康福祉部会)

10 月 18 日(土)に大原校区敬老会を開催し、322 名の敬老会対象者の方にご出席いただきました。大原保育園の園児達による「よさこい踊り」や民生・児童委員の方の「健康体操」、長寿の秘訣である「笑い」を参加者の方々に届けるべく、落語家である笑っ亭風太郎さんによる演題「一誤一笑は必須笑みの賛」(いちごいちえはひっすえみのさん)の公演もあり、会場は温かな笑みに包まれました。長寿の秘訣である「笑い」が絶えることがないように、みなさまの末永いご幸福をお祈りいたします。



第 12 回グラウンドゴルフ大会を行いました!!(スポーツ部会)

スポーツを通して校区間の融和を図り、体力の増進並びに生涯スポーツの普及・発展に寄与することを目的とし、活動を始めたグラウンドゴルフ大会も今年で 12 回目を迎えることができました。

大会当日の 11 月 23 日(日)は、天候にも恵まれ、爽やかな秋晴れのなか、会場である七夕広場に総数 252 名の選手たちが、日頃の練習の成果を競い合い、競技を通じて交流を深めあうことが出来たと感じています。

ジュニアの部に参加した子ども達が慣れないながらも一生懸命競技に参加している姿が印象的でした。



【第 12 回グラウンドゴルフ大会の成績発表】

	一般の部		ジュニアの部
優勝	緑区	A	中央一区 子ども会 B
準優勝	中央一区	GG 会 A	中央二区 子ども会
第 3 位	緑区	C	緑区 子供会 C
第 4 位	中央二区	GG 会 A	中央一区 子ども会 C
第 5 位	大板井二区	喜楽会 A	緑区 子供会 A
〃			緑区 子供会 B



視察研修に行ってきました！！（役員会）

12月12日（金）に、今後の大原小校区協働のまちづくりの参考とするため、（久留米市）田主丸校区まちづくり振興会へ視察研修に行ってきました。

田主丸校区まちづくり振興会は、平成23年度に発足し、豊かで明るく住み良い安全な地域社会の形成に寄与することを目的として活動を始められ、健康づくりや高齢者・子育て支援、お祭りや文化祭、防災マップの作成など内容としても幅広い活動に取り組まれています。

組織の成り立ちから、これまで苦労してきたことなど、大原小学校区協働のまちづくりを推進していくために、大変参考となる内容を聞くことができました。



【田主丸校区まちづくり振興会との比較】

	大原小校区協働の まちづくり準備会	田主丸校区 まちづくり振興会
①人口	7,733人	6,244人
②世帯数	3,257世帯	2,277世帯
③組織の設立	H25年3月29日	H23年4月1日

自主防災組織が立ち上がりました！！（防災部会）

防災部会では、大原小学校区の6つの行政区全てで自主防災組織を立ち上げることを目標としており、平成27年1月31日をもって全ての行政区で設立することが出来ました。また、その他の取り組みとして、地域防災力強化のため災害図上訓練（D I G）などに取り組んでいます。

自主防災組織ってなに？

減災には行政による救助・支援などの「公助」に加えて、地域住民の相互救助である「共助」、自らが自らを守る「自助」のそれぞれが必要です。自主防災組織とは、このうち「共助」のための中核組織であり、かつ「自助」を行う住民個人を直接・間接的に支える地域における基盤組織となります。



なぜ必要なの？

被災地域では、発災直後は交通網の寸断、通信手段の混乱などで、すぐには公的機関の救助が得られない可能性が非常に高いです。そのような状況下で、住民各自がばらばらに行動するのではなく、組織だった効率的な行動を行い、出火の防止、初期消火、災害情報の収集などを行うことで、災害に対し早期対応が可能であり、被害を最小限に抑える活動を行うことが出来るからです。

事例紹介

多くの犠牲を出した平成7年1月の阪神・淡路大震災では、普段から近隣や地域社会とのつながり、結びつきが極めて重要であることが再確認されることとなりました。この震災で、生き埋めや建物などに閉じ込められた人々のうち、消防などの公的機関の救助（公助）によるものはわずか2%、多くは自力または家族や隣人などの地域住民によって救出されました。



⇒なんと自助・共助での救出が約98%！！